

大好き!絵本



初瀬 恵美



『せかいで
いちばん つよい国』
作: デビッド・マッキー
訳: なかがわ ちひろ
出版社: 光村教育図書

新年あけまして おめでとうございます

早いもので、今年度も残りわずかとなりました。年長さんと保育園で過ごすことができるのも、残り3か月になりました。

今月は、年長さんにぜひ読んでほしい絵本『せかいでいちばんつよい国』を選びました。

これは、世界中の人々を幸せにするために、世界中を征服したある大きな国の大統領の物語です。とはいえ、征服には戦争がつきものです。多くの国の人々が命がけで戦い、負けて征服されたのです。そんな中、最後に一番小さな国が残りました。大きな国の大統領は、小さな国にも戦いに行きました。しかし、行ってみて驚きました。なんと、この小さな国には兵隊がいなかったのです。兵隊がいなければ戦争ができません。それどころか小さな国の人々は大きな国の兵隊たちをお客様のように歓迎しました。そして、大統領には一番立派な家を差し上げました。

おもてなしを受け、することもない兵隊たちは、小さな国の人々の仕事を手伝うようになりました。大統領はたるんでしまった兵隊たちに腹をたて、彼らを母国へ送り返し、シャキッとした兵隊たちを呼び寄せました。しかし、同じことの繰り返しです。とうとう、何人かの見張りを残して国へかえることにしました。華やかに凱旋帰国をしたものの、今までは、母国の様子が違います。それは兵隊たちが小さな国の料理をつくったり、遊びをしたり、服を着て楽しそうにしているからでした。大統領は「まあいいさ。どれもこれも、せんそうで ぶんどってきた ものだからな」といいました。その晩、息子が寝る前に「歌をうたって」といいました。目をつぶり、心に浮かぶ歌を次々にうたってやりました。それは、ひとつ残らず、大統領が征服した小さな国の歌でした。

いろいろなことを考えさせられる絵本です。「世界で一番強いことってどんなこと?」「幸せって何?」「戦争で、多くの人の命がなくなっても、幸せって手に入るものなの?」そして、例え相手がどんな人であれ、気持ちよく受け入れ、おもてなしをしていると、そこに争いは生じずに、楽しい気持ち、嬉しい気持ちがどんどん広がっていく...ということを感じました。内容が奥深く、届けたい思いがいっぱい詰まったこの絵本を、ぜひ、子どもたちと一緒に楽しみたいと思いました。